

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	大阪工業技術専門学校
設置者名	学校法人福田学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門課程	建築学科(2年制)	夜・通信	1,920 時間	$80 \times 2 = 160$ 時間	
	大工技能学科(2年制)	夜・通信	2,048 時間	$80 \times 2 = 160$ 時間	
	建築設計学科(2年制)	夜・通信	2,048 時間	$80 \times 2 = 160$ 時間	
	インテリアデザイン学科(2年制)	夜・通信	1,920 時間	$80 \times 2 = 160$ 時間	
	ロボット・機械学科(2年制)	夜・通信	1,952 時間	$80 \times 2 = 160$ 時間	
	建築士専科(1年制)	夜・通信	808 時間	80 時間	
	建築学科(2年制)	夜・通信	1,600 時間	$45 \times 2 = 90$ 時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページにて公表 https://www.oct.ac.jp/views/uploads/2024/06/2056912c7b2f87df872c3f3151bdef80.pdf
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	大阪工業技術専門学校
設置者名	学校法人福田学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

公表方法：ホームページ上にて公表 https://www.fukuda.ac.jp/disclosure.html

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	他の学校法人・副学院長 (1996. 4. 1～2002. 3. 31) 他の学校法人理事長 (2002. 4. 1～)	2001. 6. 5～ 令和 11 年度の 定時評議員会 終結の時	教学・運営体制に関する指導
非常勤	医療法人・院長補佐 (2021. 4. 1～2024. 3. 31) 医療法人・院長 (2024. 4. 1～) 他の学校法人・評議員 (2024. 4. 1～)	2024. 5. 31～ 令和 11 年度の 定時評議員会 終結の時	医師による教職員の管理・指導
非常勤	株式会社代表取締役社長 (1986. 8. 1. ～2007. 3. 31) 有限会社取締役社長 (1990. 3. 1～2017. 5. 31) 株式会社取締役会長 (2007. 4. 1. ～)	2025. 5. 29～ 令和 11 年度の 定時評議員会 終結の時	財務・経営に関する確認・指導
非常勤	株式会社入職 (1999. 4. 1～2004. 10. 31) 無職 (2004. 11. 1～)	2025. 5. 29～ 令和 11 年度の 定時評議員会 終結の時	財務に関する確認
非常勤	国家公務員 (1997. 4. 1～2008. 3. 31) 市長 (2008. 8. 27～2020. 8. 26) 株式会社 取締役 (2020. 10. 1～)	2025. 5. 29～ 令和 11 年度の 定時評議員会 終結の時	財務・運営体制に関する確認・指導
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	大阪工業技術専門学校
設置者名	学校法人福田学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 【設置学科】 建築学科(2年制)、大工技能学科(2年制)、建築設計学科(2年制)、インテリアデザイン学科(2年制)、ロボット・機械学科(2年制)、建築士専科(1年制)、建築学科(夜2年制) 【作成に係わる取組み】 教育課程編成委員会での意見や専任教員と非常勤講師で開催される連絡会での意見等を踏まえ、教務会議に於いて前年度内に各学科単位で授業科目ごとの見直し検討(改定の有無)を行った上で、運営会議に諮り承認を得た後に授業計画書(シラバス)を作成する。 なお、授業計画書(シラバス)を作成するにあたっては、【シラバス作成の手引き】に基づき「授業概要(授業内容・回数等)」及び「到達目標」・「試験方法」・「成績評価基準」等について明記する。 【公表に係わる取組み】 授業計画書(シラバス)は、ホームページで毎年度4月当初に公表する。 また、学生には科目担当教員より、初回の授業時に当該計画について説明を行う。 ◆【参考】シラバス作成の手引き 2025 ・掲載ページアドレス https://www.oct.ac.jp/views/uploads/2024/06/39f1c2e542a1802aa644405ce2fb5775.pdf	
授業計画書の公表方法	ホームページにて公表 https://www.oct.ac.jp/for-st

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

単位認定の方針は、【カリキュラム・ポリシー（教育課程編成、及び実施に関する方針）】と【履修規定】に基づいて行う。

【カリキュラム・ポリシー】では、『ディプロマ・ポリシー』に定めた能力を身に付けるため、下記のリンクアドレス先に示す編成方針、実施方針、及び成績評価基準に基づいて教育を行う。

【履修規定】では、第1条（授業科目）・第2条（単位の算定）・第3条（履修の方法）・第4条（試験）・第5条（単位の認定）・第6条（成績の評価）・第7条（単位修得の確認）・第8条（卒業証書）を定めている。

また、第5条（単位の認定）は、授業科目を履修し（原則として出席率が80%以上を履修と見做す）、授業科目ごとに作成している授業計画書（シラバス）内の〔成績評価基準〕の欄によって示された基準に基づいて、科目担当教員が厳格かつ適正な評価を行い、その評価結果について成績判定会議により単位の認定が行われる。

なお、成績発表後1週間以内に疑義のある者は、各科目担当教員または事務室に問い合わせをして確認することができる。

◆学生便覧 2025（刊行物）一部抜粋版

：〔カリキュラム・ポリシー〕：P16〕

：〔単位認定の方針、履修規定〕：P23～P31〕

・掲載ページアドレス

<https://www.oct.ac.jp/views/uploads/2024/06/9759e7f9cdc2ac3f867216a675bb73fa.pdf>

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

成績評価の客観的指標として、GPA（Grade Point Average）を採用している。

GPAでは、5段階評価（秀・優・良・可・不可）によってポイント化し、成績の分布状況を把握した上で、学生の学修指導及び進級特待生等の選定に活用している。

- ・【判定：合格】評価（秀）：評点（100～90点）＊GP（4ポイント）
- ・【判定：合格】評価（優）：評点（89～80点）＊GP（3ポイント）
- ・【判定：合格】評価（良）：評点（79～70点）＊GP（2ポイント）
- ・【判定：合格】評価（可）：評点（69～60点）＊GP（1ポイント）
- ・【判定：不合格】評価（不可）：評点（59点以下）＊GP（0ポイント）

客観的な指標の 算出方法の公表方法	ホームページにて公表 ◆学生便覧 2025（刊行物）一部抜粋版 ：〔 G P A : P 34 〕 https://www.oct.ac.jp/views/uploads/2024/06/9759e7f9cdc2ac3f867216a675bb73fa.pdf
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要） 【ディプロマ・ポリシー（卒業の認定に関する方針）】は、学生便覧等に於いて公表すると共に、『真の仕事力』に関わる 3 つの能力を身に付け、学則で定める修業年限以上の在籍、及び修了に必要な所定の単位を修得した者に対して、卒業判定会議を経た上で、卒業を認定している。 ※3 つの能力とは、以下に定めている。 【技術者マインド】・・・・・・・・・・〔技術者の軸〕 技術者としての姿勢・感性・考え方 1. 技術者の姿勢 2. 自分を知る 3. 相手を知る 4. 世界を知る 5. 頭と身体で創造する 【専門知識・技術・資格】・・・・・・・・・・〔技術者の常識〕 技術者としての基本要件 1. 専門知識 2. 技 術 3. 資 格 【ことばの力】・・・・・・・・・・〔技術者の基礎〕 学び・考え・創造し、コミュニケーションすることの根本 1. 基本的なことばの力 2. 専門知識・技術を学ぶためのことばの力 3. 社会人として通用することばの力 4. 考えるためのことばの力 5. コミュニケーションのことばの力 6. 「ことばにできることで物事を理解できること」を理解	

卒業の認定に関する 方針の公表方法	ホームページにて公表 ◆学生便覧 2025（刊行物）一部抜粋版 ：〔 ディプロマ・ポリシー：P14 〕 https://www.oct.ac.jp/views/uploads/2024/06/9759e7f9cdc2ac3f867216a675bb73fa.pdf
----------------------	--

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	大阪工業技術専門学校
設置者名	学校法人福田学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.fukuda.ac.jp/disclosure.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.fukuda.ac.jp/disclosure.html
財産目録	https://www.fukuda.ac.jp/disclosure.html
事業報告書	https://www.fukuda.ac.jp/disclosure.html
監事による監査報告（書）	https://www.fukuda.ac.jp/disclosure.html

2. 教育活動に係る情報

①-1 学科等の情報

分野		課程名		学科名		専門士		高度専門士	
工業		工業専門課程		建築学科 (2 年制)		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数		開設している授業の種類					
				講義	演習	実習	実験	実技	
2 年	昼	1, 728 単位時間／単位		832 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	1, 216 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	
				2, 048 単位時間／単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数		兼任教員数		総教員数	
200 人		97 人	0 人	9 人		23 人		32 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業科目ごとに『授業概要（授業内容・回数等）』及び『到達目標』・『試験方法』・『成績評価基準』等について明記した授業計画書（シラバス）を作成する。 ※授業計画書（シラバス）は、毎年度 4 月初旬にホームページにて公表する。
成績評価の基準・方法
（概要） 授業科目を履修した者（原則として出席率 80%以上を履修と見做す）に対して、授業科目ごとの授業計画書（シラバス）に明記している『成績評価基準』に基づき、5 段階評価：秀（100～90 点）・優（89～80 点）・良（79～70 点）・可（69～60 点）・不可（59 点以下）で判定を行う。 秀・優・良・可（100～60 点）は合格とするが、不可（59 点以下）は不合格とする。
卒業・進級の認定基準
（概要） 下記の審査基準に基づき、進級判定会議・卒業判定会議を経て認定を行う。 1. 学科で規定している科目を履修していること。 ※原則として、出席率が 80%以上でなければ科目の履修と見做さない。 2. 授業計画書（シラバス）に明記している〔試験方法〕及び〔成績評価基準〕によって行われた評価結果（単位の取得）が、進級条件並びに卒業条件を満たしていること。 3. 卒業認定では、上記に併せてディプロマ・ポリシーで示す『真の仕事力』に関わる 3 つの能力を身に付けていること。
学修支援等
（概要） クラス担任制により定期的に学生への個別面談を行い、学業面及び生活面を含めた問題の有無を確認し状況に応じた適切な指導を行う。 また、月 2 回開催する教務会議に於いては、各教科担当教員から学習面（理解度等）で問題となる学生がいるかどうかの確認を行う。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
67 人 (100%)	22 人 (32.8%)	44 人 (65.7%)	1 人 (1.5%)
（主な就職、業界等） 建設会社、建築設計事務所、ハウスメーカー、工務店、他。			
（就職指導内容） クラス担任に加え進路支援室スタッフが、就職にあたっての基礎知識や活動方法・企業の選び方・履歴書を始めとした各書類の作成方法、及び面接での対応方法を指導する。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 建築積算士補 合格者 19 名／受験者 28 名 1 級管工事施工管理技士補 合格者 1 名／受験者 1 名 2 級管工事施工管理技士補 合格者 6 名／受験者 6 名 2 級電気工事施工管理技士補 合格者 1 名／受験者 1 名 建築配管技能士（2 級）合格者 1 名／受験者 2 名 建築配管技能士（3 級）合格者 6 名／受験者 11 名 第 2 種電気工事士 合格者 5 名／受験者 10 名 福祉住環境コーディネーター（3 級）合格者 7 名／受験者 30 名 ビジネス能力検定（2 級）合格者 11 名／受験者 17 名 ビジネス能力検定（3 級）合格者 13 名／受験者 15 名 ・ 2 級建築士試験（修了と同時に受験資格を取得） ※2025 年度試験日程（学科合格発表：8/25、製図合格発表：12/2） ◆2024 年度試験において、本校 2 年次在籍中に 2 級建築士資格を取得（1 名）			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
122 人	10 人	8.2%
（中途退学の主な理由） 学生生活不適應、病気、進路変更、その他。		
（中退防止・中退者支援のための取組） クラス担任制により日々の出席管理を厳格に行い、学生本人との面談のみならず保護者等とも連絡を取り適切な指導を行う。 また、月 2 回開催する教務会議に於いては、学校全体での学生状況を把握すると共に、学生個人に係わる問題行動（授業態度等）についても情報共有する。		

①-2 学科等の情報

分野		課程名		学科名		専門士		高度専門士	
工業		工業専門課程		大工技能学科 (2 年制)		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数		開設している授業の種類					
				講義	演習	実習	実験	実技	
				704 単位時間 /単位	単位時間 /単位	1,472 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	
2 年	昼	1,824 単位時間 / 単位		2,176 単位時間 / 単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数		兼任教員数		総教員数	
70 人		41 人	1 人	5 人		23 人		28 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業科目ごとに『授業概要（授業内容・回数等）』及び『到達目標』・『試験方法』・『成績評価基準』等について明記した授業計画書（シラバス）を作成する。 ※授業計画書（シラバス）は、毎年度 4 月初旬にホームページにて公表する。
成績評価の基準・方法
（概要） 授業科目を履修した者（原則として出席率 80%以上を履修と見做す）に対して、授業科目ごとの授業計画書（シラバス）に明記している『成績評価基準』に基づき、5 段階評価：秀（100～90 点）・優（89～80 点）・良（79～70 点）・可（69～60 点）・不可（59 点以下）で判定を行う。 秀・優・良・可（100～60 点）は合格とするが、不可（59 点以下）は不合格とする。
卒業・進級の認定基準
（概要） 下記の審査基準に基づき、進級判定会議・卒業判定会議を経て認定を行う。 1. 学科で規定している科目を履修していること。 ※原則として、出席率が 80%以上でなければ科目の履修と見做さない。 2. 授業計画書（シラバス）に明記している〔試験方法〕及び〔成績評価基準〕によって行われた評価結果（単位の取得）が、進級条件並びに卒業条件を満たしていること。 3. 卒業認定では、上記に併せてディプロマ・ポリシーで示す『真の仕事力』に関わる 3 つの能力を身に付けていること。
学修支援等
（概要） クラス担任制により定期的に学生への個別面談を行い、学業面及び生活面を含めた問題の有無を確認し状況に応じた適切な指導を行う。 また、月 2 回開催する教務会議に於いては、各教科担当教員から学習面（理解度等）で問題となる学生がいるかどうかの確認を行う。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
20 人 (100%)	0 人 (0%)	20 人 (100%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） 建設会社、建築設計事務所、ハウスメーカー、工務店、他。			
（就職指導内容） クラス担任に加え進路支援室スタッフが、就職にあたっての基礎知識や活動方法・企業の選び方・履歴書を始めとした各書類の作成方法、及び面接での対応方法を指導する。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 建築大工技能士（2 級）合格者 16 名／受験者 21 名 建築大工技能士（3 級）合格者 17 名／受験者 19 名 ビジネス能力検定（3 級）合格者 17 名／受験者 18 名 ・2 級建築士試験（修了と同時に受験資格を取得） ※2025 年度試験日程（学科合格発表：8/25、製図合格発表：12/2）			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
48 人	6 人	12.5%
（中途退学の主な理由） 学生生活不適應、病気、進路変更、学業不振、その他。		
（中退防止・中退者支援のための取組） クラス担任制により日々の出席管理を厳格に行い、学生本人との面談のみならず保護者等とも連絡を取り適切な指導を行う。 また、月 2 回開催する教務会議に於いては、学校全体での学生状況を把握すると共に、学生個人に係わる問題行動（授業態度等）についても情報共有する。		

①-3 学科等の情報

分野		課程名		学科名		専門士		高度専門士	
工業		工業専門課程		建築設計学科 (2 年制)		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数		開設している授業の種類					
				講義	演習	実習	実験	実技	
2 年	昼	1, 792 単位時間 / 単位		1, 024 単位時間 / 単位	単位時間 / 単位	1, 216 単位時間 / 単位	単位時間 / 単位	単位時間 / 単位	
				2, 240 単位時間 / 単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数		兼任教員数		総教員数	
60 人		48 人	13 人	8 人		20 人		28 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業科目ごとに『授業概要（授業内容・回数等）』及び『到達目標』・『試験方法』・『成績評価基準』等について明記した授業計画書（シラバス）を作成する。 ※授業計画書（シラバス）は、毎年度 4 月初旬にホームページにて公表する。
成績評価の基準・方法
（概要） 授業科目を履修した者（原則として出席率 80%以上を履修と見做す）に対して、授業科目ごとの授業計画書（シラバス）に明記している『成績評価基準』に基づき、5 段階評価：秀（100～90 点）・優（89～80 点）・良（79～70 点）・可（69～60 点）・不可（59 点以下）で判定を行う。 秀・優・良・可（100～60 点）は合格とするが、不可（59 点以下）は不合格とする。
卒業・進級の認定基準
（概要） 下記の審査基準に基づき、進級判定会議・卒業判定会議を経て認定を行う。 1. 学科で規定している科目を履修していること。 ※原則として、出席率が 80%以上でなければ科目の履修と見做さない。 2. 授業計画書（シラバス）に明記している〔試験方法〕及び〔成績評価基準〕によって行われた評価結果（単位の取得）が、進級条件並びに卒業条件を満たしていること。 3. 卒業認定では、上記に併せてディプロマ・ポリシーで示す『真の仕事力』に関わる 3 つの能力を身に付けていること。
学修支援等
（概要） クラス担任制により定期的に学生への個別面談を行い、学業面及び生活面を含めた問題の有無を確認し状況に応じた適切な指導を行う。 また、月 2 回開催する教務会議に於いては、各教科担当教員から学習面（理解度等）で問題となる学生がいるかどうかの確認を行う。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
20 人 (100%)	5 人 (25.0%)	13 人 (65.0%)	2 人 (10.0%)
(主な就職、業界等) 建設会社、建築設計事務所、ハウスメーカー、工務店、他。			
(就職指導内容) クラス担任に加え進路支援室スタッフが、就職にあたっての基礎知識や活動方法・企業の選び方・履歴書を始めとした各書類の作成方法、及び面接での対応方法を指導する。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 2 級建築施工管理技士 合格者 1 名／受験者 1 名 第 2 種電気工事士 合格者 1 名／受験者 1 名 インテリアコーディネーター（1 次）合格者 2 名／受験者 2 名 インテリアコーディネーター（2 次）合格者 2 名／受験者 2 名 福祉住環境コーディネーター（2 級）合格者 1 名／受験者 1 名 福祉住環境コーディネーター（3 級）合格者 11 名／受験者 19 名 ファイナンシャルプランナー（3 級）合格者 1 名／受験者 1 名 ・2 級建築士試験（修了と同時に受験資格を取得） ※2025 年度試験日程（学科合格発表：8/25、製図合格発表：12/2） ◆2024 年度試験において、本校 2 年次在籍中に 2 級建築士資格を取得（1 名）			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
45 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任制により日々の出席管理を厳格に行い、学生本人との面談のみならず保護者等とも連絡を取り適切な指導を行う。 また、月 2 回開催する教務会議に於いては、学校全体での学生状況を把握すると共に、学生個人に係わる問題行動（授業態度等）についても情報共有する。		

①-4 学科等の情報

分野		課程名		学科名		専門士		高度専門士	
工業		工業専門課程		インテリアデザイン 学科（2 年制）		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数		開設している授業の種類					
				講義	演習	実習	実験	実技	
2 年	昼	1,760 単位時間／単位		896 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	1,152 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	
				2,048 単位時間／単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数		兼任教員数		総教員数	
70 人		58 人	5 人	7 人		18 人		25 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業科目ごとに『授業概要（授業内容・回数等）』及び『到達目標』・『試験方法』・『成績評価基準』等について明記した授業計画書（シラバス）を作成する。 ※授業計画書（シラバス）は、毎年度 4 月初旬にホームページにて公表する。
成績評価の基準・方法
（概要） 授業科目を履修した者（原則として出席率 80%以上を履修と見做す）に対して、授業科目ごとの授業計画書（シラバス）に明記している『成績評価基準』に基づき、5 段階評価：秀（100～90 点）・優（89～80 点）・良（79～70 点）・可（69～60 点）・不可（59 点以下）で判定を行う。 秀・優・良・可（100～60 点）は合格とするが、不可（59 点以下）は不合格とする。
卒業・進級の認定基準
（概要） 下記の審査基準に基づき、進級判定会議・卒業判定会議を経て認定を行う。 1. 学科で規定している科目を履修していること。 ※原則として、出席率が 80%以上でなければ科目の履修と見做さない。 2. 授業計画書（シラバス）に明記している〔試験方法〕及び〔成績評価基準〕によって行われた評価結果（単位の取得）が、進級条件並びに卒業条件を満たしていること。 3. 卒業認定では、上記に併せてディプロマ・ポリシーで示す『真の仕事力』に関わる 3 つの能力を身に付けていること。
学修支援等
（概要） クラス担任制により定期的に学生への個別面談を行い、学業面及び生活面を含めた問題の有無を確認し状況に応じた適切な指導を行う。 また、月 2 回開催する教務会議に於いては、各教科担当教員から学習面（理解度等）で問題となる学生がいるかどうかの確認を行う。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
31 人 (100%)	12 人 (38.7%)	17 人 (54.8%)	2 人 (6.5%)
（主な就職、業界等） 建設会社、建築設計事務所、ハウスメーカー、工務店、他。			
（就職指導内容） クラス担任に加え進路支援室スタッフが、就職にあたっての基礎知識や活動方法・企業の選び方・履歴書を始めとした各書類の作成方法、及び面接での対応方法を指導する。			
（主な学修成果（資格・検定等）） インテリアコーディネーター（1次）合格者3名／受験者23名 インテリアコーディネーター（2次）合格者3名／受験者3名 ビジネス能力検定（3級）合格者17名／受験者20名 ・2級建築士試験（修了と同時に受験資格を取得） ※2025年度試験日程（学科合格発表：8/25、製図合格発表：12/2）			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
56 人	1 人	1.8%
（中途退学の主な理由） 学生生活不適應。		
（中退防止・中退者支援のための取組） クラス担任制により日々の出席管理を厳格に行い、学生本人との面談のみならず保護者等とも連絡を取り適切な指導を行う。 また、月2回開催する教務会議に於いては、学校全体での学生状況を把握すると共に、学生個人に係わる問題行動（授業態度等）についても情報共有する。		

①-5 学科等の情報

分野		課程名		学科名		専門士		高度専門士	
工業		工業専門課程		ロボット・機械学科 (2 年制)		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数		開設している授業の種類					
				講義	演習	実習	実験	実技	
2 年	昼	1,728 単位時間／単位		608 単位時間 ／単位	480 単位時間 ／単位	1,024 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	
				2,112 単位時間／単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数		兼任教員数		総教員数	
70 人		37 人	19 人	4 人		16 人		20 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業科目ごとに『授業概要（授業内容・回数等）』及び『到達目標』・『試験方法』・『成績評価基準』等について明記した授業計画書（シラバス）を作成する。 ※授業計画書（シラバス）は、毎年度 4 月初旬にホームページにて公表する。
成績評価の基準・方法
（概要） 授業科目を履修した者（原則として出席率 80%以上を履修と見做す）に対して、授業科目ごとの授業計画書（シラバス）に明記している『成績評価基準』に基づき、5 段階評価：秀（100～90 点）・優（89～80 点）・良（79～70 点）・可（69～60 点）・不可（59 点以下）で判定を行う。 秀・優・良・可（100～60 点）は合格とするが、不可（59 点以下）は不合格とする。
卒業・進級の認定基準
（概要） 下記の審査基準に基づき、進級判定会議・卒業判定会議を経て認定を行う。 1. 学科で規定している科目を履修していること。 ※原則として、出席率が 80%以上でなければ科目の履修と見做さない。 2. 授業計画書（シラバス）に明記している〔試験方法〕及び〔成績評価基準〕によって行われた評価結果（単位の取得）が、進級条件並びに卒業条件を満たしていること。 3. 卒業認定では、上記に併せてディプロマ・ポリシーで示す『真の仕事力』に関わる 3 つの能力を身に付けていること。
学修支援等
（概要） クラス担任制により定期的に学生への個別面談を行い、学業面及び生活面を含めた問題の有無を確認し状況に応じた適切な指導を行う。 また、月 2 回開催する教務会議に於いては、各教科担当教員から学習面（理解度等）で問題となる学生がいるかどうかの確認を行う。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
22 人 (100%)	0 人 (0%)	21 人 (95.5%)	1 人 (4.5%)
(主な就職、業界等) 産業機械、精密機械、自動車等のメーカー、他。			
(就職指導内容) クラス担任に加え進路支援室スタッフが、就職にあたっての基礎知識や活動方法・企業の選び方・履歴書を始めとした各書類の作成方法、及び面接での対応方法を指導する。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 2 級機械・プラント製図技能士 合格者 1 名／受験者 2 名 3 級機械・プラント製図技能士 合格者 2 名／受験者 2 名 第 2 種電気工事士 合格者 3 名／受験者 4 名 危険物取扱者乙種第 4 類 合格者 1 名／受験者 1 名 IT パスポート 合格者 1 名／受験者 1 名 ビジネス能力検定（2 級）合格者 1 名／受験者 1 名 ビジネス能力検定（3 級）合格者 4 名／受験者 6 名			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
38 人	1 人	2.6%
(中途退学の主な理由) 学生生活不適應。		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任制により日々の出席管理を厳格に行い、学生本人との面談のみならず保護者等とも連絡を取り適切な指導を行う。 また、月 2 回開催する教務会議に於いては、学校全体での学生状況を把握すると共に、学生個人に係わる問題行動（授業態度等）についても情報共有する。		

①-6 学科等の情報

分野		課程名		学科名		専門士		高度専門士	
工業		工業専門課程		建築士専科 (1 年制)					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数		開設している授業の種類					
				講義	演習	実習	実験	実技	
1 年	昼	1, 016 単位時間 / 単位		744 単位時間 / 単位	96 単位時間 / 単位	264 単位時間 / 単位	単位時間 / 単位	単位時間 / 単位	
				1, 104 単位時間 / 単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数		兼任教員数		総教員数	
30 人		31 人	0 人	3 人		3 人		6 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業科目ごとに『授業概要（授業内容・回数等）』及び『到達目標』・『試験方法』・『成績評価基準』等について明記した授業計画書（シラバス）を作成する。 ※授業計画書（シラバス）は、毎年度 4 月初旬にホームページにて公表する。
成績評価の基準・方法
（概要） 授業科目を履修した者（原則として出席率 80%以上を履修と見做す）に対して、授業科目ごとの授業計画書（シラバス）に明記している『成績評価基準』に基づき、5 段階評価：秀（100～90 点）・優（89～80 点）・良（79～70 点）・可（69～60 点）・不可（59 点以下）で判定を行う。 秀・優・良・可（100～60 点）は合格とするが、不可（59 点以下）は不合格とする。
卒業・進級の認定基準
（概要） 下記の審査基準に基づき、進級判定会議・卒業判定会議を経て認定を行う。 1. 学科で規定している科目を履修していること。 ※原則として、出席率が 80%以上でなければ科目の履修と見做さない。 2. 授業計画書（シラバス）に明記している〔試験方法〕及び〔成績評価基準〕によって行われた評価結果（単位の取得）が、進級条件並びに卒業条件を満たしていること。 3. 卒業認定では、上記に併せてディプロマ・ポリシーで示す『真の仕事力』に関わる 3 つの能力を身に付けていること。
学修支援等
（概要） クラス担任制により定期的に学生への個別面談を行い、学業面及び生活面を含めた問題の有無を確認し状況に応じた適切な指導を行う。 また、月 2 回開催する教務会議に於いては、各教科担当教員から学習面（理解度等）で問題となる学生がいるかどうかの確認を行う。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
32 人 (100%)	0 人 (0%)	31 人 (96.9%)	1 人 (3.1%)
(主な就職、業界等) 建設会社、建築設計事務所、ハウスメーカー、工務店、他。			
(就職指導内容) クラス担任に加え進路支援室スタッフが、就職にあたっての基礎知識や活動方法・企業の選び方・履歴書を始めとした各書類の作成方法、及び面接での対応方法を指導する。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 2 級建築士（学科）合格者 28 名／受験者 31 名〔2024 年度〕 2 級建築士（製図）合格者 14 名／受験者 27 名〔2024 年度〕 建築積算士補 合格者 21 名／受験者 22 名 2 級建築施工管理技士補 合格者 13 名／受験者 17 名 2 級管工事施工管理技士補 合格者 1 名／受験者 1 名 カラーコーディネーター検定 合格者 1 名／受験者 1 名 ・2 級建築士試験（修了と同時に受験資格を取得） ※2025 年度試験日程（学科合格発表：8/25、製図合格発表：12/2）			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
32 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任制により日々の出席管理を厳格に行い、学生本人との面談のみならず保護者等とも連絡を取り適切な指導を行う。 また、月 2 回開催する教務会議に於いては、学校全体での学生状況を把握すると共に、学生個人に係わる問題行動（授業態度等）についても情報共有する。		

①-7 学科等の情報

分野		課程名		学科名		専門士		高度専門士	
工業		工業専門課程		建築学科 (2 年制)		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数		開設している授業の種類					
				講義	演習	実習	実験	実技	
2 年	夜	1,728 単位時間 / 単位		640 単位時間 / 単位	544 単位時間 / 単位	704 単位時間 / 単位	単位時間 / 単位	単位時間 / 単位	
				1,888 単位時間 / 単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数		兼任教員数		総教員数	
100 人		112 人	0 人	5 人		17 人		22 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業科目ごとに『授業概要（授業内容・回数等）』及び『到達目標』・『試験方法』・『成績評価基準』等について明記した授業計画書（シラバス）を作成する。 ※授業計画書（シラバス）は、毎年度 4 月初旬にホームページにて公表する。
成績評価の基準・方法
（概要） 授業科目を履修した者（原則として出席率 80%以上を履修と見做す）に対して、授業科目ごとの授業計画書（シラバス）に明記している『成績評価基準』に基づき、5 段階評価：秀（100～90 点）・優（89～80 点）・良（79～70 点）・可（69～60 点）・不可（59 点以下）で判定を行う。 秀・優・良・可（100～60 点）は合格とするが、不可（59 点以下）は不合格とする。
卒業・進級の認定基準
（概要） 下記の審査基準に基づき、進級判定会議・卒業判定会議を経て認定を行う。 1. 学科で規定している科目を履修していること。 ※原則として、出席率が 80%以上でなければ科目の履修と見做さない。 2. 授業計画書（シラバス）に明記している〔試験方法〕及び〔成績評価基準〕によって行われた評価結果（単位の取得）が、進級条件並びに卒業条件を満たしていること。 3. 卒業認定では、上記に併せてディプロマ・ポリシーで示す『真の仕事力』に関わる 3 つの能力を身に付けていること。
学修支援等
（概要） クラス担任制により定期的に学生への個別面談を行い、学業面及び生活面を含めた問題の有無を確認し状況に応じた適切な指導を行う。 また、月 2 回開催する教務会議に於いては、各教科担当教員から学習面（理解度等）で問題となる学生がいるかどうかの確認を行う。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
42 人 (100%)	0 人 (0%)	40 人 (95.2%)	2 人 (4.8%)
(主な就職、業界等) 建設会社、建築設計事務所、ハウスメーカー、工務店、他。			
(就職指導内容) クラス担任に加え進路支援室スタッフが、就職にあたっての基礎知識や活動方法・企業の選び方・履歴書を始めとした各書類の作成方法、及び面接での対応方法を指導する。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 1 級管工事施工管理技士補 合格者 2 名 1 級土木施工管理技士補 合格者 1 名 消防設備士甲種第 4 類 合格者 2 名 インテリアコーディネーター（1 次）合格者 1 名 インテリアコーディネーター（2 次）合格者 1 名 宅地建物取引士 合格者 2 名 福祉住環境コーディネーター（2 級）合格者 1 名 色彩検定（2 級）合格者 1 名 ・2 級建築士試験（修了と同時に受験資格を取得） ※2025 年度試験日程（学科合格発表：8/25、製図合格発表：12/2）			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
103 人	4 人	3.9%
(中途退学の主な理由) 病気、その他。。		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任制により日々の出席管理を厳格に行い、学生本人との面談のみならず保護者等とも連絡を取り適切な指導を行う。 また、月 2 回開催する教務会議に於いては、学校全体での学生状況を把握すると共に、学生個人に係わる問題行動（授業態度等）についても情報共有する。		

②学校単位の情報

a)「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
建築学科 (2年制)	150,000 円	920,000 円	156,000 円	その他の費用（施設設備費、 及び委託徴収金）
大工技能学科 (2年制)	150,000 円	1,070,000 円	156,000 円	その他の費用（施設設備費、 及び委託徴収金）
建築設計学科 (2年制)	150,000 円	1,020,000 円	156,000 円	その他の費用（施設設備費、 及び委託徴収金）
インテリア デザイン学科 (2年制)	150,000 円	920,000 円	156,000 円	その他の費用（施設設備費、 及び委託徴収金）
ロボット・ 機械学科 (2年制)	150,000 円	920,000 円	156,000 円	その他の費用（施設設備費、 及び委託徴収金）
建築士専科 (1年制)	75,000 円	680,000 円	156,000 円	その他の費用（施設設備費、 及び委託徴収金）
建築学科 (夜2年制)	100,000 円	424,000 円	94,000 円	その他の費用（施設設備費、 及び委託徴収金）
修学支援（任意記載事項）				
■ 在校生対象学費支援：1年次の成績優秀者に対し、進級時に年間授業料の一部を免除 ■ 特待生入試：入学試験の合格者（授業料の一部を免除※2年間） ■ 高校特別指定校推薦入試：入学試験の合格者（授業料の一部を免除※2年間） ■ 卒業生・在校生推薦入試：入学試験の合格者（授業料の一部を免除※初年度のみ）				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)		
ホームページにて公表 https://www.oct.ac.jp/assets/pdf/other/zikotenkenhyouka.pdf		
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）		
『専修学校における学校評価ガイドライン』に基づき、学校の教育活動、教育成果、学生支援、教育環境、その他の学校運営の状況等全般に亘って、自己点検評価を行うと共に、企業等の役職者等で構成する「学校関係者評価委員会」に於いて、自己点検評価の結果に対する意見と評価を頂く。 また、その結果をホームページ等で広く社会に公表すると共に、当該意見を踏まえたうえで、今後の教育活動及びその他の学校運営に活かすことを目的・方針とする。 【評価委員の構成】委員の定数：4名以上 〔建築系企業役職者1名以上、機械系企業役職者1名以上、教育関係者1名以上卒業生1名以上〕 【評価結果の活用方法】 委員会終了後速やかに、評価委員から提出された意見をもとに、副校長が実施責任者となって、当該年度内に優先順位を付けて改善を行う。なお、当該年度内に実施できない事項については、継続案件として次年度以降に取り組む。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
株式会社金山工務店 取締役 延安浩二	2019. 4. 1～2025. 3. 31 (任期終了)	企業等委員
栗本建設工業株式会社 常務取締役大阪本店長 石田智泰	2025. 4. 1～2027. 3. 31 (新規就任)	企業等委員
住友精密工業株式会社 総務人事部アシスタントマネジャー 河野正道	2019. 4. 1～2027. 3. 31 (任期更新)	企業等委員
奈良県立奈良南高等学校 副校長 松山義広	2019. 4. 1～2025. 3. 31 (任期終了)	教育関係者
堺市立庭代台中学校 校長 大橋幸一	2025. 4. 1～2027. 3. 31 (新規就任)	教育関係者 (前職：高等学校長)
建築学科（夜間）〔平成5年卒業〕 村野智子	2021. 4. 1～2027. 3. 31 (任期更新)	卒業生 (校友会長)

学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)
ホームページにて公表 https://www.oct.ac.jp/assets/pdf/other/R6_Rgakkoukannkeishahyouka.pdf
第三者による学校評価 (任意記載事項)

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)
ホームページアドレス https://www.oct.ac.jp/

(別紙)

- ※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。
- ※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	H127310000219
学校名（〇〇大学 等）	大阪工業技術専門学校
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人福田学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		45人（ 0 ）人	45人（ 0 ）人	46人（ 0 ）人
内 訳	第Ⅰ区分	21人	21人	
	（うち多子世帯）	（ 0人）	（ 0人）	
	第Ⅱ区分	－ 人	－ 人	
	（うち多子世帯）	（ 0人）	（ 0人）	
	第Ⅲ区分	12人	12人	
	（うち多子世帯）	（ 0人）	（ 0人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	－ 人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	－ 人	－ 人	
	区分外（多子世帯）	0人	0人	
家計急変による 支援対象者（年間）				－ 人（ 0 ）人
合計（年間）				47人（ 0 ）人
(備考)				

- ※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。
- ※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	0人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)、及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	0人	0人	— 人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)、及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が警告の基準に該当)	0人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	0人	— 人	— 人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	0人	0人
計	0人	— 人	— 人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。